

日本マレーシア国際工科院 (MJIT)

別紙 5

1 概要

- ・ 2001年にマハティール首相(当時)が小泉総理(当時)に提案し、マレーシアに日本型の工学系教育を行う大学を設置する構想がスタート。2011年9月、マレーシア工科大学(UTM)の傘下に、独立性の高い工科院として開校。東方政策の集大成との位置付け。
- ・ 日・マレーシア間の共同プロジェクトとして、講座制などの特色ある日本型工学教育による高度な専門性に基づく学術研究機関とする。
- ・ 将来的には、ASEANにおける日本式工学教育の拠点として発展していくことが期待される。

2 組織形態

(1) 運営

・ 院長(Dean), 副院長, 学科長による運営・諮問委員会(両国政府, 産業界及びMJITの代表)が運営方針にアドバイス。

(2) 学科

イ. 電子システム工学科

ロ. 機械精密工学科

ハ. 環境・グリーン技術工学科

ニ. 技術経営工学科

※イ及びロは、学部と大学院(修士, 博士)から構成。ハ及びニは大学院。

3 経緯

1982年: 東方政策がスタート

2001年: マハティール首相(当時)が小泉総理(当時)に、日本型工学教育を行う国際工科大学の設置を提案

2005年: アブドゥラ首相(当時)と小泉総理(当時)の臨席の下、準備センター(MJUC)をUTMIに設置

2010年4月: 日馬首脳会談においてナジブ首相と鳩山総理(当時)の間で議論の結果、UTM傘下のMJIT案を進める方向で検討開始

2010年5月: マレーシア政府がMJIT設立を閣議決定

2011年9月: MJIT開校・学生受入れ

2012年6月: MJIT開校式実施(鳩山総理特使、ナジブ首相臨席の下、日本側コンソーシアム大学とUTMが協力覚書に署名。)

4 教員・学生

2014年7月時点の学生(953名)と教員数

- ① 学生数(カッコ内は外国人数) 606名(57名)
 - ・ 大学院 259名(47名)
 - ・ 修士119名(8名), 博士140名(39名)
 - ・ 学部 347(9名)
- ② 教員数 68名(うち、日本人17名)



5 我が国の協力

円借款供与

- ・ 実験機材等整備のため、約67億円を限度として供与(2011年12月E/N署名。)
- ・ 併せて、JICA専門家を派遣(2012年現在2名)。

MJITコンソーシアムの設置

日本国内の大学、政府機関、JICA、日本商工会議所が構成するコンソーシアムを設置し、日本人教員派遣やカリキュラム策定等の協力を実施。

<参加大学(25大学)>九州大学、慶応大学、埼玉大学、芝浦工業大学、拓殖大学、東海大学、東京農工大学、長岡技術科学大学、名古屋工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、明治大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、大阪大学、山口大学、近畿大学、東京工科大学、東京電機大学、東京理科大学、岡山理科大学、九州工業大学、金沢大学、豊橋技術科学大、山形大学、筑波大学(順不同)

日本人教員の派遣

- ・ 構想に基づくブループリント策定のため、3名の日本人教員を派遣(2006年)。
- ・ 2011年以降、コンソーシアム参加大学が協力し、日本人教員候補を推薦・派遣。これまでに27名を派遣・推薦済み。